



## 2022年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年11月14日

上場会社名 株式会社セルシード 上場取引所 東  
 コード番号 7776 URL <https://www.cellseed.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 せつ子  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 最高財務責任者 (氏名) 小野寺 純 TEL 03-6380-7490  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年12月期第3四半期の業績 (2022年1月1日～2022年9月30日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第3四半期	88	—	△564	—	△570	—	△574	—
2021年12月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第3四半期	△28.38	—
2021年12月期第3四半期	—	—

(注) 2022年12月期第1四半期累計期間より、四半期財務諸表を作成しているため、2021年12月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第3四半期	1,482	1,081	71.3
2021年12月期	1,408	1,044	72.4

(参考) 自己資本 2022年12月期第3四半期 1,056百万円 2021年12月期 1,019百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年12月期	—	0.00	—		
2022年12月期 (予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年12月期の業績予想 (2022年1月1日～2022年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	209	29.8	△834	—	△834	—	△838	—	△43.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期3Q	22,159,419株	2021年12月期	17,759,419株
② 期末自己株式数	2022年12月期3Q	155株	2021年12月期	154株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期3Q	20,241,075株	2021年12月期3Q	17,009,745株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は、2021年12月15日公表の「海外連結子会社の解散・清算に関するお知らせ」に記載の通り、2022年12月期第1四半期より非連結決算（単体決算）へ移行いたしました。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(会計方針の変更) .....	6
(セグメント情報等) .....	6
(後発事象) .....	7
3. その他 .....	7
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、Withコロナに向けた新たな段階への移行が進められ、経済社会活動の正常化が進む中で景気が持ち直していく動きが見られました。しかしながら、世界的な金融引締め等による海外景気の減速懸念に加え、ウクライナ情勢の長期化の影響等による資源価格の高騰、急激な円安の進行等により、国内経済に与える影響が懸念され、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

当社はこのような環境の下、コスト削減による財務体質の改善と安定的な財務基盤の確立を図りつつ、再生医療支援事業及び細胞シート再生医療事業における活動を推進いたしました。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は88,185千円、営業損失は564,470千円、経常損失は570,781千円、四半期純損失は574,377千円となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### ① 再生医療支援事業（細胞培養器材、製造受託など）

細胞培養器材事業では、2022年10月の販売開始に向け、細胞の大量回収に特化した新製品の開発をまいりました。当該製品は、様々な感染症やがん疾患などの予防法や治療法を開発するための研究用細胞の大量培養を目的とした新たな市場への販売が可能であり、特に海外を中心とした継続的に拡大するプラスチック製品の需要に対応できるものであります。今後もさらなる生産体制の充実、品質確保を図り、新規の顧客を獲得できるよう努めてまいります。

当社細胞培養センターを活かした再生医療を支援する再生医療受託事業については、引き続き共同研究先である東海大学より先進医療にかかる自己軟骨細胞シートの製造を受託しております。第3四半期累計期間には1症例の売上のみでしたが、検収時期のずれにより売上計上できなかったものも含め第4四半期中に複数症例の売上を計上する見込みです。

以上のような活動の結果、売上高は81,230千円、営業損失は70,433千円となりました。

#### ② 細胞シート再生医療事業

細胞シート再生医療事業では、食道再生上皮シート及び同種軟骨細胞シートの細胞シート2品目の再生医療等製品の自社開発を中心とした研究開発を推進しております。

食道再生上皮シートは医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）の下、2020年10月に治験届を提出後、引き続き追加治験を実施しております。PMDAからの新たな指摘への検討に対しても取り組みつつ2025年の製造販売承認申請に向けて活動を行っております。

同種軟骨細胞シートについては、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）採択事業として「同種軟骨細胞シート（CLS2901C）の製品化に向けたセルバンク構築を含む企業治験開始のための研究開発」を引き続きその支援を受けながら開発を進めており、2022年末の治験届提出に向け着々と準備を進めております。

事業提携活動につきましては、複数の会社との事業提携及び共同研究契約の締結に向けた活動を積極的に行っております。今後も、引き続き新規の提携契約を獲得できるように努めてまいります。

以上のような活動の結果、売上高は6,955千円、営業損失は347,476千円となりました。

### （2）財政状態に関する説明

#### （資産）

当第3四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べて79,476千円増加し、1,087,014千円となりました。これは、現金及び預金が94,102千円増加した一方で、売掛金が18,764千円減少したことなどによります。

当第3四半期会計期間末の固定資産は、前事業年度末に比べて5,194千円減少し、395,476千円となりました。これは、有形固定資産が5,279千円減少したことによります。

この結果、当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて74,281千円増加し、1,482,490千円となりました。

#### （負債）

当第3四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べて42,857千円増加し、214,141千円となりました。これは、賞与引当金が10,895千円増加したことなどによります。

当第3四半期会計期間末の固定負債は、前事業年度末に比べて5,557千円減少し、186,739千円となりました。これは、長期借入金が5,625千円減少したことなどによります。

この結果、当第3四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べて37,300千円増加し、400,881千円となりました。

#### （純資産）

当第3四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べて36,981千円増加し、1,081,609千円となりました。これは、新株予約権の行使による株式の発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ305,632千円増加した一方で、四半期純損失を574,377千円計上したことなどによります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2022年2月14日発表の業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	846,674	940,777
売掛金	28,164	9,399
商品及び製品	24,315	21,355
仕掛品	763	6,158
原材料及び貯蔵品	16,459	37,810
その他	91,160	71,512
流動資産合計	1,007,537	1,087,014
固定資産		
有形固定資産	105,572	100,292
投資その他の資産	295,099	295,184
固定資産合計	400,671	395,476
資産合計	1,408,209	1,482,490
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	5,023	134
1年内返済予定の長期借入金	1,250	6,875
賞与引当金	4,486	15,381
その他	160,524	191,750
流動負債合計	171,284	214,141
固定負債		
長期借入金	158,750	153,125
資産除去債務	33,546	33,614
固定負債合計	192,296	186,739
負債合計	363,581	400,881
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,548,657	1,326,051
資本剰余金	1,770,454	305,632
利益剰余金	△5,298,692	△574,377
自己株式	△227	△227
株主資本合計	1,020,191	1,057,079
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△321	△321
評価・換算差額等合計	△321	△321
新株予約権	24,757	24,851
純資産合計	1,044,627	1,081,609
負債純資産合計	1,408,209	1,482,490

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
売上高	88,185
売上原価	45,405
売上総利益	42,780
販売費及び一般管理費	
研究開発費	333,949
その他	273,300
販売費及び一般管理費合計	607,250
営業損失(△)	△564,470
営業外収益	
受取利息	10
為替差益	1,993
受取手数料	175
その他	25
営業外収益合計	2,204
営業外費用	
支払利息	628
新株発行費	7,887
営業外費用合計	8,515
経常損失(△)	△570,781
特別利益	
新株予約権戻入益	2,358
特別利益合計	2,358
特別損失	
減損損失	3,104
特別損失合計	3,104
税引前四半期純損失(△)	△571,527
法人税、住民税及び事業税	2,850
法人税等合計	2,850
四半期純損失(△)	△574,377

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、新株予約権の行使に伴う新株の発行により、当第3四半期累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ305,632千円増加しております。

また、当社は、2022年3月25日開催の定時株主総会の決議により、2022年5月3日付で資本金3,528,238千円、資本準備金1,770,454千円をそれぞれ減少しその他資本剰余金に振替え、振替後のその他資本剰余金5,298,692千円の全額を繰越利益剰余金に振替えることにより欠損填補に充当しました。

以上の結果、当第3四半期会計期間末における資本金は1,326,051千円、資本剰余金は305,632千円となっております。

(会計方針の変更)

収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。「以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱に従っておりますが、利益剰余金の期首残高へ与える影響はありません。

また、当第3四半期累計期間の損益に与える影響もありません。

時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当第3四半期累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年9月30日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	再生医療支援 事業	細胞シート 再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	81,230	6,955	88,185	—	88,185
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	81,230	6,955	88,185	—	88,185
セグメント損失(△)	△70,433	△347,476	△417,909	△146,560	△564,470

(注) 1 セグメント損失(△)の調整額△146,560千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に経営企画部門に係る費用であります。

2 セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては、3,104千円であります。

## （重要な後発事象）

## （新株予約権の行使による増資）

当社が2022年9月30日に発行した第23回新株予約権につき、2022年10月3日から2022年11月8日までの間に、以下の通り行使されました。

## (1) 新株予約権行使の概要

- ① 新株予約権の名称  
株式会社セルシード第23回新株予約権
- ② 行使価格  
1株当たり123円～135円
- ③ 行使新株予約権個数  
3,974個
- ④ 行使者  
バークレイズ・バンク・ピーエルシー（Barclays Bank PLC）
- ⑤ 交付株式数  
397,400株
- ⑥ 行使価額総額  
51,107千円

## (2) 当該新株予約権行使による発行済株式数及び資本金

- ① 増加する発行済株式数  
397,400株
- ② 増加する資本金の額  
25,595千円

## 3. その他

## 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、当社新株予約権の行使による資金調達の実施等により、前連結会計年度末の手元資金（現金及び預金）残高は930,945千円となり、財務基盤については安定的に推移しております。一方で事業面におきましては細胞シート再生医療事業の重要課題である細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の道程を示すまでには至っておりません。以上のことから、当社は当第3四半期会計期間末において、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していると判断しております。

当社は当該状況の解消を図るべく、引き続き以下の施策に取り組んでおります。

## 当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の実現と事業提携の推進による収益機会の獲得

当社は、今後、食道再生上皮シート及び同種軟骨細胞シートの開発を推進し、当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化を実現すること、また事業提携先の開拓を通じて、更なる収益機会を獲得していくことで当該状況の解消を図って参ります。